

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

## ～スティーブ・ジョブズって・・・知ってる？①～

もちろん知ってますよね。（Appleの共同創業者の一人であり、iPhoneおよびiPadを世に送り出した人です。）

「偉大な仕事は、一人ではなしえない。それはチームでなしえるものだ。」

そのことをスティーブ・ジョブズはビートルズから教わったそうです。

「僕のビジネスモデルはビートルズだ。互いの欠点をチェックし、バランスがとれていた。個々を合わせたものよりも優れていた。」

とジョブズは語っています。そのジョブズですが・・・



最初の「マッキントッシュ」というパソコンが完成したときは、ジョブズはペンを取り出し、チームメンバーにサインを書くよう求めた。46名のそのサインは、すべてのマッキントッシュの内側に彫り込まれました。ジョブズはこう語っています。「**アーティストは作品に署名を入れるんだ**」

ジョブズにとって、仕事とはお金を稼ぐための手段ではなかった。仕事とは、メンバーとともに・・・「**世界に衝撃を与えること**」でした。そのために生み出したものは、すべて「作品」なのです。パソコンの内部の部品が取り付けられた基盤は、外からは見えない。しかし、目に見えないところにまで、基盤の美しさを求めたスティーブ・ジョブズ。

「中を見る者などいないからそれは意味がない」と、ジョブズに反論したエンジニアもいましたが、ジョブズの答えは・・・

「**できるかぎり美しくあってほしい。箱の中に入れていても、だ。**」

でした。優れた家具職人は、誰も見ないからといってキャビネットの背面を粗悪な板で作ったりしない、という理由で。

「**夜、心安らかに眠るためには、美を、品質を最初から最後まで貫きとおす必要がある**」

iPhoneの制作でも、最後までそのこだわりは貫かれた。iPhone完成まであと一歩と、追い込みに入ったある日、ジョブズはふと気づく。iPhoneはディスプレイが中心でなくてはならない。現状のままだとケースがディスプレイと競うような状態になっている。

しかし、こんな土壇場で仕様変更すれば、時間もお金も膨大にかかってしまう。ほぼすべてをつくり直す必要があったのです。なにか大きな欠陥があるわけではないのですから、普通の会社であれば、これはそのまま続行になったことでしょう。しかし、ジョブズは・・・

「**良くない部分があったとき、それを無視し、あとで直せばいいというのはダメだ。**

**そんなのはほかの会社がすることだ！」**

と立ち止まりました。



その後・・・ジョブズはiPhoneの制作メンバーにこう告げます。

「ここ9ヵ月、このデザインで必死にやってきたわけだが、これを変えることにした。これから全員、夜も週末も働かなきゃいけなくなった。希望者には、我々を撃ち殺す銃を配布する。」

9ヵ月みんなで必死にやってきたことでも、ゼロに戻せる。どんなにがんばってきたことでも、リセットできる。**これがスティーブ・ジョブズという男です。**

なぜなら、ジョブズにとって・・・仕事とは・・・お金を稼ぐための手段ではなく・・・早く終わらせるものでもなく・・・仕事とは・・・**そう……………そうです……………**

「**世界に衝撃を与えること**」だったからではないでしょうか。「**心に従わない理由などない!**」

あなたも心の中の・・・「本当になりたい自分」に従わない理由なんてありませんよね。